

令和5年度第2回静岡県依存症対策連絡協議会・アルコール健康障害対策連絡協議会  
合同連絡協議会 会議録

日時：令和6年2月28日（水）午後3時から4時40分まで  
場所：男女共同参画センター「あざれあ」 501会議室

1 開会

2 挨拶

石田障害者支援局長より挨拶

3 議事

第2期静岡県アルコール健康障害対策推進計画の策定について

- ・事務局より資料1～5に基づき説明

第2期静岡県ギャンブル等依存症対策推進計画の策定について

- ・事務局より資料6～10に基づき説明

【意見交換】（資料1～5）

山名委員（服部病院）

- ・近年若者による市販薬のオーバードーズが増加している。こうした人たちは多量飲酒をしており、早い段階から依存症になってしまう。学齢期からの第1次予防が必要。学校での講演会は薬物、アルコール、喫煙と1回ずつあるが、1回では不足していると感じる。また、ご家族も我がごとと考えてもらい来ていただく方が良い。

山城会長（静岡福祉大学名誉教授）

- ・保護者も含め学習の機会を増やしていくことが重要。

鈴木委員（静岡県医師会理事）

- ・現在代9次保健医療計画の策定作業中であるが、様々な数値、データが織り込まれた専門診療科中心の視点の計画である。一方この計画は一般の県民が理解しやすいような工夫が施されていると感じる。

山城会長

- ・県民の皆さんにとってわかりやすい内容になってきていると私自身も感じている。

大久保委員（静岡市こころの健康センター所長）

- ・山名委員の御発言に関して、私もそのとおりと思っている。当センターは依存症の相談拠点になっており、市販薬に関する相談は非常に増えてきている印象。アルコールに関しては、市販薬と一緒に飲むことでより効果を発揮することがSNS上でも知られており、若者たちはアルコールをカッコいいと思って飲んでおらず、市販薬の効果を高めるために飲んでいる。小中高生に対し薬学講座を100%実施していることの意義は大きいと思うが、学校現場としては、薬学講座は必須の取組みとして実施しているが子供たちの反応が薄いとのこと。薬物は体に良くないということだけでなく、なぜ薬物を使うのかといった視点も含め伝えていかなければ、他人ごとと捉えてしまうおそれがある。講座内容の見直しや、どのようなニーズが教育現場にあるか把握する必要はある。

山城会長

- ・まず実施することが大事だが、その後のブラッシュアップも必要。

小泉委員（静岡県断酒会理事長）

- ・次期計画では、これまで保健所等を主とした相談対応が、市町にも降りてきたと感じ、とても嬉しく思っている。
- ・飲酒している本人は自発的に相談せず、御家族が身近な市町の相談窓口へ行くが、市町ではある程度話聞くと、保健所の対応ですねと言われてしまう。今後は市町に対し相談対応に関する人材育成を行うのであれば、適切な医療機関や自助グループにつなげられる寄り添った相談ができるのではないかと感じる。また、相談員も断酒会の例会に実際に参加し、実情を把握した上で相談に対応してもらえるとありがたい。

山城会長

- ・相談対応が市町にもおりてきたというお話があったが、昨日私が参加した会議でも、政令市とその他市町では対応のギャップを感じるといった意見があった。

馬淵委員（静岡県保健所長会（御殿場保健所長））

- ・最近アルコールや特に薬物の関連で通報に至るケースが非常に多く、危惧している。実際保健所は市民と少し遠い存在になっていると思う。以前はお子さんが生まれたときに保健所で研修を行っていたため市民との距離が近かったが各市町にお願いするようになってからは、保健所がどこにあるかわからないという状況になっている。
- ・ただ問題意識としては保健所も同様に考えている。実務上、御殿場市や小山町と連携することも多く、1市1町という特性もあり距離感が近いと感じているが他の圏域は難しい側面があると思う。
- ・次期計画に対するパブリックコメントを確認したが、ギャンプルと異なり細部に渡り貴重な御意見をいただいている。これらの御意見を次期計画に反映していることは意義がある。計画を通して、市民等に対する啓発等を実施していきたい。

大橋委員代理（県立こころの医療センタ - 副院長）

- ・アルコール、薬物、ギャンプル、ゲーム等々の分野への対策について、静岡市は人口も多く、こうした疾患に困っている本人や御家族が多いと思っている。精神科医療機関である当センタ - としても対応していく必要があると感じている。

馬淵委員

- ・計画案への反映に関わることだが、先日、厚生労働省が健康に配慮した飲酒に関するガイドラインを公表した。ガイドラインには、飲酒と疾患との関係を示している。生活習慣病のリスクを高める飲酒量を、男性は1日あたり40グラム以上、女性20グラム以上としているが、脳梗塞であればより少ない量でリスクがあるとしている。なぜアルコール健康障害対策を進める必要があるのか、疾患の観点からもガイドラインの内容を織込み計画推進の根拠にできるといい。

大久保委員

- ・疾患に関連することだが、たばこのパッケージには、肺がんのリスクを高めるという文言とともに、肺の臓器の写真を掲載するなど注意喚起を行っているが、お酒の缶は妊娠中の飲酒を控える旨の注意文はあるもののデザイン性のあるものになっている。たばこのパッケージのようにすると変化があるかは分からないがそういった方法もあるのではないかと。

馬淵委員

- ・以前は少量のアルコールの摂取は体に良いと言われており、喫煙、飲酒も大人っぽさがあるという意識があったが、そうした風潮が徐々に無くなりつつあると思っている。身体の害になり得るといったことを発信していく必要があると考えている。

山城会長

- ・飲酒に伴う害を伝えるには踏み込んだ取組み、メッセージが必要。

小泉委員

- ・前回の協議会で、家族支援の一環として、わかりやすいチラシや冊子を作成することが盛り込まれていたが、家族の方がチラシを見て、実際に相談に行きやすいチラシにする必要がある。家族の方がチラシを持って窓口に行けば何とかなるという思いを持ち作成することが大事である。

山城会長

- ・家族としても早期発見・早期治療が望ましいのは分かっているが、実際は早期に治療につながらず10、20年かかるケースもある。文章で早期治療などと記載するだけでなく、本人・家族に対しどのように支援するか具体的に伝えることが大事。

藤村委員（静岡ダルク代表）

- ・私は依存症の当事者である。小学校の頃、父にビールを飲まされていた。母もその様子を見て笑っていた。たばこも家庭内にあったため、こっそり吸ったこともあったが、家族は依存症についての理解が薄かったと思う。
- ・先ほど若者のオーバードーズに関する話があったが、本人だけの問題ではなく、なぜ使用するのか、そこには家庭、貧困、居場所がないこと、また、大人たちが依存症に無知であるために垣根が低くなっていき、その延長で、早い段階で依存症になる。
- ・本人だけでなく家族に対しても、お酒やたばこは子どもに触れさせないということを伝えられる場所がもっと増えるといい。

山城会長

- ・体験者の話は、聞いている側も実感的に伝わる。周囲の大人達もアルコール健康障害に関する正しい知識を持つことが重要。

大久保委員

- ・薬学講座は、当事者が講師の場合もあれば、薬剤師やライオンズクラブの場合もある。共通して伝える知識に加え、講座を通してどのようなメッセージ性を持たせるかが講師によって様々であることに課題があると感じる。積極的に精神保健福祉の視点を取り入れ、どのようなころを子供たちに教えていく必要があるか整理、統一していきたいと思っている。

山城会長

- ・御発言のあった視点を踏まえた複数のカリキュラム案が検討されるといい

#### 【意見交換】(資料6～10)

長坂委員（静岡福祉大学教授）

- ・この協議会の前にギャンブル等依存症対策連絡協議会を開催した。公営競技において、来場が減少した一方でスマートフォンでのネット投票が大きく増加しており、投票券の購入方法が変化してきているようだ。
- ・先週開催した依存症フォーラムでは、近年複数の依存症や問題を抱えている実情があるのではないかと聞いたことを踏まえ、重複障害（クロスアディクション）をテーマに、依存症当事者や御家族をパネリストとしてお招きした。パネルディスカッションでは、重複障害の明確な問題や、回復支援施設や自助グループにつながったことで初めて自分の問題に気付いたという意見があり、アルコールと同様に取組まなければならない問題があることが明らかになった。

山城会長

- ・私も参加したが、ネット投票によりギャンブルの方法が大きく変わった。本場へ行かなくてもスマートフォンで数字を選択し淡々で行えるので恐ろしさを感じた。

古川委員（聖明病院院長）

- ・ゲーム依存に対応するデイケアを土曜日に実施しているが、参加人数が増えている。

ギャンブルやゲーム依存は物質依存と比較して脳へのダメージが少ないこともあってか、平日の仕事や通学は続いていることが多いことから土曜日に実施している。

- ・患者の特徴として、パチスロは減少した一方、ネットによるギャンブルが増加した。
- ・静岡県では、ギャンブル障害の前段階として、ゲーム依存があると位置づけ、子どもの段階から、ゲーム障害が将来ギャンブル障害に移行しないよう、ゲーム障害に関する取組を積極的に実施している。
- ・ゲーム障害には様々な特徴があり、アイテム課金を始めると、ゲームに依存しているのか、射幸心をあおるルーレットに依存しているのか、ギャンブル依存との境目が曖昧になる。もう一つの特徴として、アルコールや薬物依存では、県で実施しているつながりキャンプのような野外活動で回復したという話はほとんど無く、あくまできっかけやモチベーションを上げるための動機付けにとどまるが、ゲーム障害の場合は、ゲーム以外に熱中できるリアルの楽しさ、人とのつながりに触れると、快方に向かうことがある。
- ・タブレット等の端末で児童・生徒のネット依存度を判定し、高リスク者へはアウトリーチ等により認知行動やミーティングにつなげていく取組は、他県と比較しても先進的である。

夏目委員（教育委員会健康体育課）

- ・学校現場は社会から多くを求められており、対応する教職員が多忙を極めている。講座等の開催回数が少ないという御意見もそのとおりと思うが、学校現場で必要性を感じていても多くのことに対応しているため時間を確保できないといった実情がある。また、保護者への周知も、学校によりPTA総会や授業参観への出席率に大きな差があることが課題。一方で、タブレット等が普及しているためこれらを活用した周知や啓発を行うことも1つの方法と思う。

山城会長

- ・多忙な学校現場で時間を確保するのは大変だと思う。教育といっても、学校教育だけでなく、社会教育、家庭教育、職場内教育等様々な視点から進めていく必要があると思う。

石井委員（静岡保護観察所）

- ・静岡保護観察所では依存が進行している方々が対象。保護観察期間中はプログラムにより定期的に様々な支援を行えるが、観察後に支援機関との関係が切れてしまう。そのため、観察中に地域の支援機関に繋がるとしているが難しい。
- ・政令市以外の自治体に居住している方は、行政の相談窓口に行っても依存症に対応できる職員がおらず、結果的に病院やダルクへ繋いでいるようだが、保健所や市町担当部署で気軽に依存に関する相談を受け取ってもらえると本人家族共に心強い。質問だが、静岡市在住でないと静岡市で対応はしてもらえないのか。

大久保委員

- ・他の自治体からも相談がある。断らずに話を聞き、場合により当センターのプログラムに遠方から参加していただいたり、コロナ禍ではオンラインを活用して他の自治体から参加いただくこともあった。相談者の周辺に適切な相談先があれば案内している。
- ・各委員の話を聞いていて、依存対象別に分けることが難しくなっている印象がある。様々な依存に関する相談を受けているが、Vtuberへの課金やホスト依存等もギャンブル性が高い印象がある。自分に振り向いてもらおうとお金をつぎ込み、つぎ込むお金を稼ぐために風俗で働き、薬物やお酒の問題につながることで発生しており、依存の境目が分からなくなっている。
- ・アルコール、ギャンブル、ホスト依存など分別せず、依存症全体に理解のある町づくりを目指していかないと対策が追いつかないと感じる。子どもだけでなく、親世代も

含め、何かに頼り生きていることは当たり前であるが、誰でもその先の依存症になり得ることなどを広く普及していくことが重要。

山城会長

- ・パブリックコメントで、依存症はコントロール障害という病気であることを強調してほしいと意見があったが、どの依存症の根底にもそういった特徴がある。また、中間的な行政機関にある保健所と市町の関わり方にも課題があると思う。

馬淵委員

- ・市町によっても対応できる範囲に差がある。対応が難しい場合は保健所が医療機関や行政機関等に繋ぐ役割を担っている。

中村委員（兼菅原委員代理）（精神保健福祉士協会）

- ・協議会を通じ教育の話題が多かった印象がある。昨年実施された、障害者権利条約の対日審査に対するレポートを出している当事者団体（D P I 日本会議）の代表と話す機会があり、国際的に見て日本は何から取り組むべきかと質問したところ、教育である答えていただいた。これまで依存症に限らずあらゆる障害者福祉に関して区別、または覆い隠されてきたため早期治療・早期介入へのハードルが上がったり、自助グループとの関わりに躊躇したりといった現状を変えることが近道ではないかと話があった。
- ・4月から施行される改正精神保健福祉法では、市町でも、メンタルヘルスに課題のある方も支援していくこととなり、現場の支援者として試される時代になってきた。

山城会長

- ・アルコール健康障害対策は、障害関係に限定するのではなく健康づくり分野からも関わっていく必要がある。学習の機会などは健康分野の方が多く、身体健康とリンクさせて取り組むことが良いと思っている。アルコール健康障害対策は、様々な施策の中でも重要な部分に位置づけられると思う。今後はより具体的な施策を実施していく必要があると思っている。また、回復支援と社会復帰を両立する取組として愛知県の断酒会では就労継続支援B型事業所を運営している。こうした事例も参考にしながら具体的な施策を講じていきたい。

#### 4 閉会